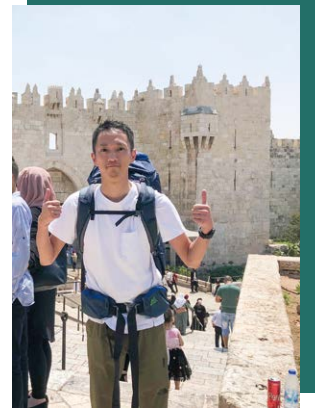


オンライン会議



自炊

エルサレム



DAISUKE IIDA

千葉日報



AGE

43



6つのこと

飯田大輔さんの いいだ だいすけ

福祉楽団
理事長

今号の表紙



アリス

SUBARU



朝、出勤してまず目を通すのは『千葉日報』。まちの話題が中心で、ほほえましい平和な内容が多くて、長年愛読してます。今日の記事だと、「『大きいの取れた』園児と学生が芋掘り」とか(笑)。デスクには、オンライン会議で使う機器類がすっかり定着しましたね。毎日の会議も、研修や大学の講義も、ほとんどオンライン。ヤマハのスピーカーマイクは音が良くて、相手がストレスなく聞き取れるので、いまや必需品です。

コロナが少し落ち着いて、仕事で外に出る機会がちょっとずつ戻ってきました。車は昔からSUBARU。学生時代に乗り始めて、これで4台目。地面に吸い付くような走りが最高です。運転中は、今はアリスをよくかけてます。中学生の頃、母親に連れられて行った谷村新司のコンサートが初めてのライブ体験で、ナマの迫力がすごくて、トークもおもしろくて、それ以来ずっと好き。最新のポップスも聴きますよ。いまは優里の『ドライブフラワー』。若い人たちといつでもカラオケに行けるように、スタンバイOKです(笑)。

休日は、ひたすら寝ます。翌日が休みで、目覚ましをかけずにベッドに入る瞬間が至福です。あと、おいしいものを食べるのも幸せ。外食が減って自炊が増えましたね。普段はごはんと味噌汁に、野菜か魚を足すぐらい。Netflixでドラマとか観ながら食べてます。今年よかったのは韓国の『ナビレラ』、特に第8話がめっちゃ泣けた(笑)。長期休暇はだいたい海外旅行。コロナ禍の前に行ったのは中東で、エルサレムやパレスチナ、ヨルダンをバックバックでまわりました。また旅行で海外に出られるようになったら、次はグアムかハワイがいいかなあ。なんにもせず、ゆっくりしたいですね。

「杜の家」と歩んだ18年

あみしろ
網代由美子さんインタビュー

「前の職場だったら、チームの中で仕事が遅くてできない人だったのが、そうじゃなくなった」。2003年、「杜の家くりもと」の開設時に福祉楽団に入職してから相談援助職に従事。現在は「杜の家なりた」で働く網代由美子さん（48歳）は、福祉楽団での18年をそう振り返る。

入職前に勤めた障害者支援施設では、年功序列などの組織運営で利用者中心とはいえない暮らしに疑問を持っていた。「ノーマライゼーションの意識改革はあっても、職員配置やお金の使い方、発想が柔軟じゃなく十分に進んでいない」と感じていた。会社説明会で福祉楽団の話聞いて「民主的な組織で、形骸的じゃない仕事ができるかも」と思った。働いてみると「理想に向かって働くことを許される。許されるどころか、やらなきゃ周りから焚きつけられる」、そんなところが自分に合っていると思えた。実習に来た学生から聞いた言葉が嬉しく今でも心に残っている。「働いている介護職員さんから『この職場けっこう好きだよ』って聞いて、悪口じゃなくてそう言える職場っていいなって思いました」。

25年続けてきた福祉の初心を思い出すと、なぜか前の職場の先輩や大学の先生の顔が浮かぶ。「一人ひとりの希望や好みに合わせた暮らしができるように、職員が声を上げて少しずつ変革することが大切」という話を繰り返し聞かされてきた。それまで熱意とか経験でやってきたものが「福祉楽団に来て、理念や理論として言語化された。私には実行しやすくスッキリした」。最後に将来への展望を聞いた。「福祉楽団では新しい取り組みが次々と行われていくなか、自分は先達の思いを胸に持って実践をしていくことで、これからの人たちに伝えていきたい」。理想の実現に向けて、バトンはつながれてゆく。

text:
サポートセンター
上野興治

19年、変わらず続く音

ふみこ
ボランティア 板倉文子さんインタビュー

2010年に初めて参加した夏祭り。板倉さん(左)と母親の平山タイさん

「杜の家くりもと」の『ごほんの日』は、近隣の人が気軽に集まって食事ができる場として定着している。新型コロナウイルスの影響で休止していたが、今年10月ようやく再開できた。その再開を心から喜んでくれたのが、ボランティアとして支えてくれている板倉文子さん（76歳）だ。

板倉さんとの関係は、今年で19年目を迎える「杜の家くりもと」の開設当時まで遡る。趣味は「大正琴^{たいしょうごこと}」で、曲のレパートリーは100曲にもなる。「口ずさむ歌には伴奏があったほうが楽しい」という考えから、演奏の依頼は断らずに積極的に受け、市の広報誌に取り上げられるほどだった。「杜の家くりもと」が開設して間もない頃、入居している近所の人の面会で、母親と一緒に訪れた。母親から「大正琴を弾いてあげたら?」と勧められたことがきっかけで、施設で披露するようになり、それからは訪れるたびにリビングにいる人たちに手作りの歌集を渡しては伴奏するようになった。

母親が95歳になり「杜の家くりもと」のショートステイを利用するようになった。その後、特養に入居になり104歳で逝去されるまでの間も、板倉さんは「みなさんに喜んでもらえるし、相手の楽しみが自分の楽しみになっている」と施設で演奏を続けた。

『ごほんの日』には、「自分が運転できなくなるのが心配。いろんな情報を集めて同じように困っている人に伝えたい」と、今も参加して下さっている。母親の亡き後も、「杜の家くりもと」には板倉さんの“大正琴”の音色が聞こえてくる。



『ごほんの日』で“大正琴”を演奏する板倉さん

text:
杜の家くりもと 施設長
久古浩孝



「過去」と「今」と「未来」を行ったり来たり

パラメディカル株式会社 常務取締役 ^{いまぜき かずひろ} 今関一博さんインタビュー

パラメディカル株式会社で常務取締役と営業本部長を兼任されている今関一博さん（49歳）は、「杜の家くりもと」が建設中の2002年から、福祉楽団の福祉用具を支えて来ています。今でも施設やサポートセンターに顔を出し、親身に話を聞いてくださる頼もしい存在です。

福祉楽団との出会いを伺った。「私が千葉県香取地域の担当営業だったとき、栗源町（現 香取市）に新しく福祉施設ができるという噂を聞きました。人づてに情報を集めていくと、経営者が分かってきて。ある日、アポなしで営業に飛び込んだ先が前理事長（故 在田正則氏）のご自宅でした。前理事長のお父様がちょうど日向ぼっこをされていて、お声をかけると、そのまま前理事長が経営されている養豚場に連れて行っていただけまして。そこからです（笑）」。それから20年経つが、昨日のこのように覚えているという。福祉楽団の印象は、当時も今も変わっていない。「やっていることは“理念”そのものだし、守りに入らず変化しながら突き進む姿がカッコいい。あと印象的なのは、職員さんの元気な挨拶ですね（笑）」。

今関さんが仕事で大切にされていることは、「営業担当として一時の利益を考えるのではなく、“この会社が良くなるには何を選択すべきか”と、その会社の社員のつもりでかかわること」。だが、その選択にも「正解はない」と今関さんは続ける。「自分が正解だと思って選択したことも、何年か経てば状況が変わって正解ではなくなる。だから、今できる最善の選択をし、それを後で振り返る。その繰り返しがより良い未来につながると思います。「過去」と「今」と「未来」を、自分の中で行ったり来たりしてますね」。

今関さんの言葉に重ねると、福祉楽団の「未来」を創るのは「今」の私たち職員であること。そして、福祉楽団が設立20周年を迎えられたのは、今関さんのような人たちの大きな支えがあったからこそだと、強く感じました。



いつもタイミングよく来てくれて、組織の小さな変化にも気づいていただける



text : サポートセンター 原田貴征



児童養護施設の整備事業者に 選定されました

「千葉県子どもを虐待から守る基本計画」に基づいて公募された児童養護施設について、福祉楽団の提案が採択され事業者として決定しました。全国の児童虐待相談対応件数は増加の一途をたどり、千葉県では2021年に子どもの虐待死亡事例もあったことから、児童相談所の機能強化も含めて、児童養護施設をはじめとする子どもの保護、養育機能も強化していくこととしています。

千葉県の児童養護施設は、人口が集中する北西部には2カ所しかなく、ほとんどの施設が南部と東部に立地しています。こうしたことから、福祉楽団では、子育て世代も増えている習志野市を計画地として選定しました。定員は36名で、このほか、子どものショートステイ6名と、一時保護6名を併設します。子どもの生活は、6人をひとつの単位として、ひとつの家で家庭的な雰囲気生活できるようにします。全国の児童養護施設への入所理由の多くは親からの「虐待」や「放任」となっており、これらに対応できる職員体制をつくっていくことも必要です。「ショートステイ」は、子育てに疲れた親が休息のために一時的に子どもを預けられる場所として整備し「一時保護」は児童相談所が保護した子どもが一時的に生活する場所です。福祉楽団では、食事



児童養護施設の模型を製作して計画の検討をすすめている

や、お風呂、睡眠、遊びなど、子どもの毎日の生活を整えていくことが成長や健康につながると考えます。2022年度に実施設計を行い、2023年度に建設工事、2024年に開設する計画です。

また、同一敷地内には、高齢者のグループホームと、看護小規模多機能居宅介護、障害者の就労支援も整備する予定です。子どもと高齢者が近くの家で生活し、多様な人が働く姿が見られるような施設になります。千葉県の子ども福祉と、習志野市の地域福祉に微力ながら役立つように創意工夫をもって取り組んでまいります。なお、施設整備のほとんどは借入金になります。施設整備へのご寄付の検討をいただくと幸いです。



text : 福祉楽団 理事長 飯田大輔

COVER STORY

福祉楽団 理事長

飯田大輔さん



今号の発行月が設立20周年にあたるということで、表紙は、思い切って理事長の飯田さんをお願いしてみた。応諾していただけて一安心。インプットとアウトプットを繰り返し常に多忙なイメージだが、日常を知り、同じ人間なんだとわかってホッとした。



text :
サポートセンター
原田貴征

VOICE

ご利用者やご家族などからハガキやメールなどで寄せられた「声」に対して、職員がお答えします。

ご意見

【「杜の家やしお」居宅介護支援】

担当ケアマネジャーへ依頼したことが、他の事業所うまく伝わらず、自身で伝達することがあります。担当者を変更して欲しいです。

お答えします



石川 大輝

杜の家やしお
副施設長

対応が行き届かずご不快な思いをさせてしまい、申し訳ありませんでした。担当者を変更するとともに、事業所内での指導やフォローの体制を強化し、改善に努めていきたいと思っております。

ご意見

【福祉楽団 地域ケアよしかわ】

子ども食堂の話聞き、なくてはならない活動だと思いました。食事のとれない子どもたちやお年寄りいることも今の日本なのです。

お答えします



松本 亜季

福祉楽団 地域ケアよしかわ事業部
ケアマネジャー

子ども食堂(通称「みんなの食堂」)にご賛同いただきありがとうございます。温かい食事と、ホッとする一時を提供できる場所にしたいと思ひ、活動しています。今後ともご支援を賜われれば幸いです。

※掲載しているご意見の内容は個人情報の保護の観点から編集をしています。

THANK YOU!

福祉楽団は法人設立20周年を迎えました!

2001年12月7日に千葉県栗源町(現在の香取市)で福祉楽団は設立されました。地元の人からの愛情と支援をたくさんいただいて、右も左もわからないまま混乱の中で事業に着手したのを思い出します。あれからちょうど20年です。いまま地域の皆様と多くのスタッフに支えられて事業ができていることを嬉しく思います。今後とも末永く応援していただければ幸いです。

理事長 飯田大輔

TOPICS

01 「杜の家やしお」のエアコンが新しくなりました

「杜の家やしお」は竣工して15年が経過しエアコンの故障が目立っていましたが、このたびすべての入れ替え工事を行い、11月18日に工事が完了しました。これに伴い居室内の換気扇も新しくしましたので、音が静かになったと思います。総事業費は約7,800万円で、全額借入金で調達しました。

02 「杜の家やしお」ユニット内の工事が行われます

「杜の家やしお」では水害による垂直避難に対応できるよう2階、3階のリビングの改修工事を行います。工事期間中(12月中旬～3月中旬)はご入居者にご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどお願いいたします。この工事により災害時に2階と3階のフロアの換気量と避難スペースを確保することができます。総事業費は2,800万円で、そのうち1,800万円は国庫補助を受ける計画です。

03 面会基準を緩和しています

新型コロナウイルス感染症にかかわる特別養護老人ホーム等の面会基準について、11月11日付で「レベル2」に緩和し「予約不要」となっています。ワクチン接種を完了しているご家族等については個室での面会も可能となっています。面会基準は、市中の感染状況に応じて随時変更しますので、最新の情報はホームページをご覧ください。お問い合わせください。

04 重層的支援体制の構築に向けた勉強会は351人が受講しました

9月～11月にかけて3回にわたって福祉楽団が主催し、獨協大学草加キャンパスで開催した「重層的支援体制」の勉強会は延べ351人の参加がありました。地域において「スキマ」を埋めていくような相談支援体制の必要性や各地の取り組み事例などを学びました。